

デジタル人材育成 一丸

新田高と3大学・2短大 覚書

公開講座交流や共同研究

新田高校は1日、県内私立の3大学・2短大と「人口減少対策」デジタル人材育成に関する覚書を締結した。同校の教職員が各大学の高度な教育や研究に触れ

る機会の充実などを盛り込み、高校と大学の円滑な連携による地域活性化を目指す。

新田高によると、県内の大学に2025年ごろから開設が予定されている情報関係学部に進む高校生の土台づくりを通して、将来的に県内の人口減少を抑制する狙い。

今後は同校生徒の大学見学や公開講座への参加による交流や、高校の「総合的な探究の時間」での大学の出張講義や共同研究などの実施を想定している。

同校であった締結式には新田高、松山大、同短期大、松山東雲女子大、松山東雲短大、人間環境大の理事長らが参加し、覚書に署名。同

覚書を締結した各教育機関の代表者ら11日午前、松山市山西町



高の和田真志校長は「地域の大学・短大に興味を持ち、地域に根付き、愛媛の未来を切り開く人材を育てたい」とあいさつした。立会人として中村時広知事も出席した。
(増田有梨)